

# モニタリングサイト1000 陸生鳥類調査 情報

2011年 1月号 Vol.2 No.2



*Erithacus akahige*  
Photo by Yoshiro Watanabe

## 結果速報

### モニタリングサイト1000 2010年度繁殖期 一般サイト結果速報 森 さやか(日本野鳥の会)

全国約1,000か所のモニタリングサイトのうち、森林・草原の一般サイトは422か所を占める重要な分野です。調査には、多くの市民調査員のみなさまにご協力いただいております。森林・草原の一般サイトでは、概ね 5年に 1度の頻度で陸生鳥類調査（繁殖期および越冬期）および植生概況調査（繁殖期にのみ実施）を実施することになっています。2010年度は、森林84サイト、草原21サイト、計105サイトに調査を依頼しました。この速報では、2010年11月2日までに結果の受付と入力が終わっている、森林71か所、草原16か所、計87か所からのデータを用いて、今年度繁殖期の鳥類調査結果を中間報告いたします。

### 記録された鳥類

今回の調査では、合計152種の鳥類が確認されました。森林および草原における出現率（全調査サイト数に対する、その種が確認されたサイト数の割合）、平均優占度（各サイトにおいて確認された全鳥類の個体数に対する、その種の個体数の割合の平均値）の上位種をそれぞれ表1、2に示しました。第1期の森林における出現率の上位10種は、ウグイス、シジュウカラ、ヒヨドリ、コゲラ、ヤマガラ、キビタキ、キジバト、ハシブトガラス、ホオジロ、メジロだったため（日本野鳥の会・バードリサーチ 2007）、多少順位に入れ替わりはあるものの、今回の結果とおおむね一致した傾向でした。第1期の繁殖期の草原における出現率の上位10種は、ヒバリ、ウグイス、カワラヒワ、ハシボソガラス、キジバト、ハシブトガラス、ツバメ、ホオジロ、オオヨシキリ、スズメであ

表 1. 2010年度繁殖期の出現率の上位10種

| a) 森林サイト(n=71) |         |       | b) 草原サイト(n=16) |         |       |
|----------------|---------|-------|----------------|---------|-------|
| 順位             | 種名      | 出現率 % | 順位             | 種名      | 出現率 % |
| 1              | ウグイス    | 95.8  | 1              | ウグイス    | 87.5  |
| 2              | シジュウカラ  | 88.7  | 2              | ハシブトガラス | 81.3  |
| 3              | ハシブトガラス | 87.3  | 3              | キジバト    | 75.0  |
| 4              | キジバト    | 85.9  | 3              | ホオジロ    | 75.0  |
| 5              | ヒヨドリ    | 83.1  | 3              | ハシボソガラス | 75.0  |
| 6              | コゲラ     | 81.7  | 6              | カッコー    | 68.8  |
| 7              | キビタキ    | 80.3  | 6              | ヒバリ     | 68.8  |
| 7              | ヤマガラ    | 80.3  | 6              | ツバメ     | 68.8  |
| 9              | メジロ     | 78.9  | 6              | ヒヨドリ    | 68.8  |
| 10             | ホオジロ    | 66.2  | 6              | カワラヒワ   | 68.8  |

表 2. 2010年度繁殖期の優占度の上位10種

| a) 森林サイト(n=71) |          |         | b) 草原サイト(n=16) |        |         |
|----------------|----------|---------|----------------|--------|---------|
| 順位             | 種名       | 平均優占度 % | 順位             | 種名     | 平均優占度 % |
| 1              | ヒヨドリ     | 10.8    | 1              | ウグイス   | 8.0     |
| 2              | ウグイス     | 9.1     | 2              | ホオジロ   | 6.1     |
| 3              | メジロ      | 5.9     | 3              | イワツバメ  | 6.0     |
| 4              | シジュウカラ   | 5.7     | 4              | スズメ    | 5.0     |
| 5              | ヤマガラ     | 4.1     | 4              | オオヨシキリ | 5.0     |
| 6              | キビタキ     | 3.5     | 6              | ヒバリ    | 4.4     |
| 7              | ヒガラ      | 3.4     | 7              | カワラヒワ  | 4.3     |
| 8              | ハシブトガラス  | 3.3     | 8              | ツバメ    | 3.6     |
| 9              | ホオジロ     | 3.2     | 8              | ヒヨドリ   | 3.6     |
| 10             | センダイムシクイ | 3.1     | 8              | キジバト   | 3.6     |

り（日本野鳥の会・バードリサーチ 2007）、こちらも順位の入れ替わりはありますが、今回の結果とおおむね一致した傾向でした。

### 外来種の出現状況

外来種は、第1期にも記録されたコジュケイ、ドバト、ガビチョウ、ソウシチョウ（環境省自然環境局生物多様性センター 2009）が記録されました。コジュケイは、埼玉県と広島県の草原サイト、茨城県、群馬県、神奈川県、長野県、愛知県（2サイト）、三重県、滋賀県、和歌山県、徳島県、香川県（4サイト）、高知県、熊本県、大分県、鹿児島県（2サイト）の森林サイト、合計21サイトで記録されました。ガビチョウは、埼玉県の草原サイト、福島県、東京都、熊本県、大分県の森林サイト、合計5サイトで記録されました。ソウシチョウは、東京都、静岡県、鳥取県（2サイト）、愛知県（2サイト）、香川県、長崎県、熊本県（3サイト）、大分県 の合計12か所の森林サイトで記録されました（図1-b）。これら3種は、記録されたサイトでは優占度が2%を超える主要種でした（コジュケイ:2.54±2.08 SD, ガビチョウ:2.48±1.73, ソウシチョウ:12.59±10.67）。特に、ソウシチョウは他の2種より出現個体数が多く、優占度も高いため、ウグイスなど外来種

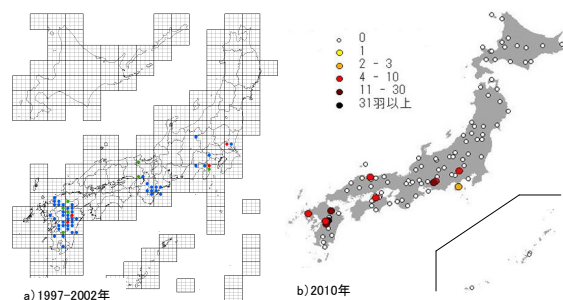


図 1. 外来種ソウシチョウの記録状況。a: 環境省自然環境局生物多様性センター(2004)より改変, 赤:繁殖確認, 青:繁殖可能性あり, 緑:生息。b: 今回の調査結果

への影響が懸念されます(江口・天野 2008)。また、過去の鳥類繁殖分布調査(図1-a) 環境省自然環境局生物多様性センター 2004) では確認されていない鳥取県、香川県でも記録されていることから、分布の拡大が懸念されます。

## 調査へのご協力ありがとうございました

2010年度繁殖期の一般サイト調査には、122名のみなさまのご協力をいただきました。最後にお名前を記し、お礼に代えさせていただきます。

浅川千佳夫, 新井武夫, 有田茂生, 池野進, 石鍋慎也, 猪口洋子, 今兼一郎, 今里順一郎, 岩切久, 岩田篤志, 上野吉雄, 宇治土公貞宏, 内田房子, 梅木賢俊, 江口初男, 大沢八州男, 大塚啓子, 大羽康利, 緒方清人, 岡本良平, 奥野俊博, 小沢勝美, 片山繁子, 片山卓也, 片山一, 川南勉, 北川和則, 櫛田一夫, 久高将和, 熊谷淳一, 黒田治男, 桑原民生, 後藤康夫, 小林めぐみ, 小林美博, 小堀脩男, 小見山節夫, 小室智幸, 小山信行, 小山均, 斎勝美, 酒井敬治, 佐久間智子, 佐々木伸宏, 佐野清貴, 篠崎知明, 篠原盛雄, 柴田俊夫, 柴田英美, 志摩俊樹, 十一正雄, 鈴木, 鈴木和善, 鈴木君子, 関川實, 先崎啓究, 高井正明, 高橋徹, 高橋誠, 竹田憲正, 田中英昭, 田中葉子, 田中芳昭, 谷口真一, 田村廣子, 田村元春, 千嶋淳, 千葉博光, 塚越徹, 塚原和之, 辻博希, 土屋義道, 津曲隆信, 土居克

夫, 富樫悦夫, 中井節二, 中尾禎志, 中崎悦子, 中里幹久, 中村茂, 中村洋子, 成田脩三, 成田富美子, 新山英憲, 西村公志, 沼野正博, 羽田収, 濱洲ゆみ, 林謙治, 葉山茂生, 速水厚, 原口研治, 疋田英子, 日比野晃祥, 藤井薫, 藤島牧子, 藤島光俊, 藤本修, 藤原正貴, 星野由美子, 前田和浩, 正井憲一, 松原茂, 松原秀幸, 丸山健司, 水野寛美, 宮野啓子, 宮野壽, 村上修, 村上賢治, 森眞, 安岡久志, 築川堅治, 柳田和美, 山崎智子, 矢本賢, 吉田和人, 吉田良平, 米倉静, 鷺田善幸, 渡部通, 渡辺靖夫(敬称略, 五十音順)

## 引用文献

- 江口和洋・天野一葉(2008) ソウシチョウの間接効果によるウグイスの繁殖成功の低下. 日本鳥学会誌 57(1):3-10
- 環境省自然環境局生物多様性センター(2004) 第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨.
- 環境省自然環境局生物多様性センター(2009) 重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000) 森林・草原調査第1期取りまとめ報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨.
- 日本鳥学会(2000) 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本野鳥の会・バードリサーチ(2007) モニタリングサイト1000 2007年繁殖期調査-結果速報-. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨.

## モニ1000 他分野活動紹介

### 干潟におけるシギ・チドリ類調査と 湖沼湿原におけるガンカモ類調査 植田睦之・神山和夫(バードリサーチ)

モニタリングサイト1000では、森林・草原分野以外でも鳥類のモニタリングを実施しています。今回はそのうちのシギ・チドリ類調査とガンカモ類調査についてお知らせします。

シギ・チドリ類調査は全国の主に干潟で実施されており、126サイト(図1)で調査が行なわれています。コアサイトでは越冬期と渡り期(春と秋)にそれぞれ3回以上の調査を実施し、シギ・チドリ類の個体数を把握しています(一般サイトは各1回以上)。

ガンカモ類調査は主にガン・ハクチョウ類の飛来地で実施されており、80サイト(図1)で調査が行なわれています。

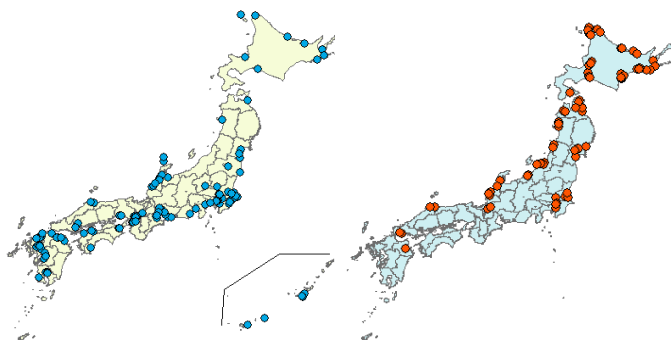


図1. シギ・チドリ類の調査サイト(左)とガンカモ類の調査サイト(右)。

越冬期と渡り期(春と秋)にそれぞれ1回以上の調査を実施し、ガンカモ類の個体数を把握しています。

シギ・チドリ類については、モニタリングサイト1000が始まる前から、環境省の個体数変動モニタリング調査として個体数が記録されてきました。モニ1000のデータをこれらの情報とあわせて解析することにより、春の渡りでは41種中11種が、秋の渡りでは42種中16種が過去10年、20年、30年のいずれかの区間で減少していることがわかってきます(図2)。

こうしたシギ・チドリ類、ガンカモ類調査で得られた結果は、ラムサール登録基準の検討のための情報、レッドリスト検討のための情報等、国の湿地生態系の保全のための資料として活かされています。

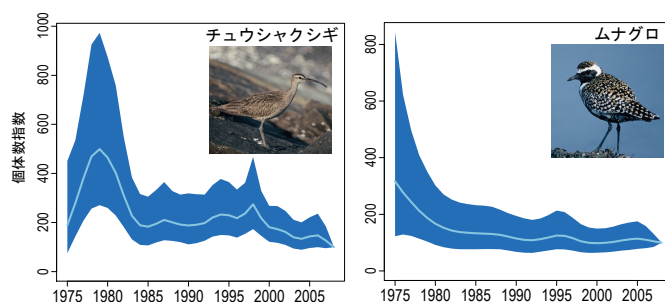


図2. チュウシャクシギとムナグロの秋の渡りの個体数の変化。水色の実線は指数の推定値、青色の幅はそのばらつきを示す。指数は2008年の値を100とした相対値で示されており、指数の減少は個体数の減少を示している(Amano et al. 2010 を改変)。写真: 渡辺美郎氏

## 結果速報

### 2010年度 コア・準コアサイト鳥類調査 繁殖期結果報告

植田睦之(バードリサーチ)

2010年の繁殖期は、29か所で調査を予定し、うち27か所で調査を行ないました。残念ながら宮崎県の2調査地では、口蹄疫の発生に伴う交通規制のため調査を実施することができませんでした。

#### 去年の調査結果との比較

コアサイトについて、2009年度の調査結果と比較すると、生息種数の多いところでは昨年度の結果と差が大きい傾向がありました(表1)。また、南の調査地では種数がマイナスになっている調査地が多く、北の調査地ではプラスになっている調査地が多くみられました。春先の寒さや夏の暑さといった今年の気象条件による差なのか、通常の年変動あるいは調査精度の問題なのか、次年度以降の調査結果を見て判断したいと思います。なお、記録に差のあった種には特定の傾向は見受けられませんでした(図1)。

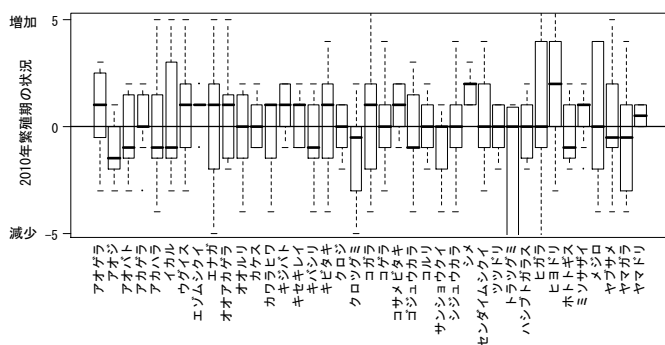


図1. 種別の記録個体数の2009年と2010年の増減の状況。

#### 巣箱を使った繁殖時期の調査

気候変動の鳥への影響を見る上で、繁殖時期等の生物季節情報の収集が重要になってきます。そこで、昨年の自動録音装置に続き、巣箱をつかって繁殖時期を推定できないか試みました。秩父調査地に10個の巣箱を設置し、樹洞の多い天然林でも、鳥が巣箱を利用するかどうかの検証と、巣箱内に設置した温度ロガーで繁殖時期の把握ができるかどうかを試験しました。

設置した10個のうち5巣がヤマガラにより利用され、樹洞の多い天然林でも巣箱の利用率はかなり高いことがわかりました(図2)。

ロガーは5巣中3巣が故障しており、2巣分しかデータを得ることができませんでしたが、そのいずれもふ化時期と巣立ち時期をよく把握できており、手法の有効性が確認できました(図3)。故障の原因は、雷雨により巣箱が水浸しになり、ロガーにも浸水してしまったためと考えられましたので、防水対策を講じることで、さらに成果をあげられることが期待できます。

表1. 2010, 2009年繁殖期 コア／準コアサイトの確認種数。

| サイト名   | 種別  | 2010   | 2009 |
|--------|-----|--------|------|
|        |     | 確認種数   | 確認種数 |
| 足寄     | コア  | 34     | 27   |
| 雨龍     | コア  | 29     | 36   |
| 野幌     | 準コア | 31     | -    |
| 苫小牧    | コア  | 28     | 26   |
| カヌマ沢   | コア  | 21     | 20   |
| 青葉山    | 準コア | 27     | -    |
| 早池峰    | 準コア | 24     | -    |
| 金目川    | 準コア | 35     | -    |
| 大佐渡    | コア  | 33     | 25   |
| 小佐渡    | コア  | 35     | 31   |
| カヤの平   | コア  | 27     | 22   |
| おたの申す平 | コア  | 21     | 19   |
| 御岳濁河   | 準コア | 22     | -    |
| 小川     | コア  | 24     | 22   |
| 那須高原   | コア  | 39     | 31   |
| 大山沢    | コア  | 36     | 28   |
| 秩父     | コア  | 39     | 33   |
| 函南     | 準コア | 28     | -    |
| 愛知赤津   | コア  | 20     | 24   |
| 上賀茂    | コア  | 23     | 23   |
| 芦生     | コア  | 25     | 26   |
| 和歌山    | コア  | 19     | 24   |
| 市ノ又    | コア  | 21     | 20   |
| 椎葉     | 準コア | 26     | -    |
| 田野     | コア  | 調査実施せず | 23   |
| 綾      | コア  | 調査実施せず | 22   |
| 屋久島照葉  | 準コア | 15     | -    |
| 奄美     | 準コア | 19     | -    |
| 与那     | コア  | 17     | 16   |



図2. 巣箱の底に設置した温度ロガーとそこに営巣したヤマガラ。

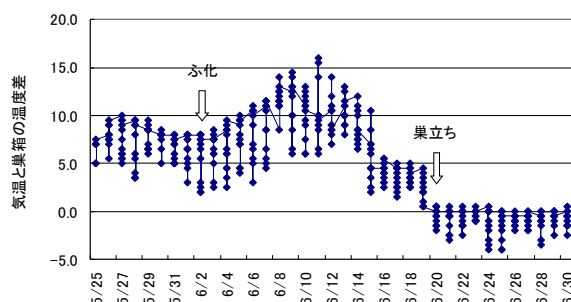


図3. 温度ロガーの温度変化から推定できたヤマガラの繁殖時期。

現地調査にあたっては、石田健、岩本富雄、川崎慎二、河野雅志、金城孝則、久保田勝義、小室智幸、今野怜、今野美和、才木道雄、佐々木孝男、佐藤重穂、嶋孝弘、外間聡、高美喜男、高橋誠、滝沢和彦、竹丸勝朗、田場和雄、中島拓人、沼野正博、原田修、平野敏明、藤江昌代、堀田昌伸、猿子正彦、三浦隆、三上かつら、安田千夏、柳田和美、米山富和(敬称略)ほか多くの方々のご協力をいただきました。自動録音の設置・解析にあたっては、池田淳夫、石田健、鈴木智之、高木正博、田代直明、平野敏明、堀田昌伸、松本経、山ノ内誠、吉田俊也、米山富和、頼ウメ子の諸氏にご協力をいただきました。これらの皆様に感謝いたします。



## 検討委員会報告

### 第2期の解析の方向性 ～解析ワーキンググループでの議論から～

植田睦之(バードリサーチ)

2010年7月23日に森林・草原調査解析ワーキンググループが開催されました。また、11月16日には一般サイトの検討会が開催されました。これらの検討会で、第2期(2008～2012年度)の解析の方向性が議論されましたので、それについてご報告したいと思います。

#### 気候変動にかかわる解析

森林・草原分野では気候変動による森林草原生態系への影響が注目されています。気温の変化に伴う分布や個体数、季節性の変化、種子生産量の変化、大規模な台風が増加することによる影響などが注目されています。この部分で鳥類調査が果たす役割としては、

- ・第1期調査で寒冷な森林の鳥類相の指標となるとされたヒガラ、コガラ、ゴジュウカラ、温暖な森林の指標となるとされたヒヨドリ、ヤマガラ、メジロなどの種に注目して分布の変化をモニタリングすること
- ・メボソムシクイ、キクイタダキなどの高標高域のスペシャリストに注目してモニタリングすること
- ・個体数や種数の変化をモニタリングすること
- ・さえずり頻度の季節変化など生物季節情報の把握手法の検討や蓄積に努めること
- ・種子生産の変化に対応してアトリ科の鳥の飛来状況や留鳥の生息数の変化について検討すること
- ・台風攪乱による鳥類の変化の有無を検討すること

があげられました。

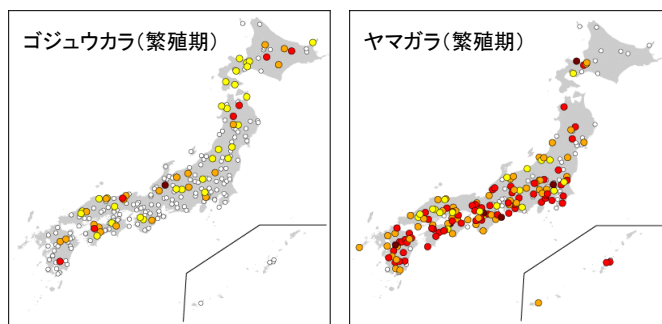


図 1. 寒冷な地域の指標としてあげられたゴジュウカラと温暖な地域の指標としてあげられたヤマガラの分布状況(第1期調査)

#### 生物間相互作用の変化

生物間相互作用としては、各地で問題となっているマツ枯れやナラ枯れの森林生態系への影響、シカの密度増加の影響が注目されています。この部分で鳥類調査が果たす役割としては、

- ・大規模な病虫害の発生した場合に、その後の鳥類相の変化の有無について検討すること
- ・簡易植生調査で下層植生被度の被度についてのベースライン情報を収集すること
- ・下層植生被度と鳥類相との関係を解析すること

があげられました。

#### 外来種についての解析

外来種については、ソウシチョウやガビチョウが分布を拡大していると考えられ、インドクジャクは島嶼生態系に大きな影響を与える可能性があります。また早くから日本に定着した外来種のコジュケイは、これまでの分布域では近年個体数が減少傾向にあるようですが、積雪の減少に伴い分布を拡げる可能性も考えられています。そこで、

- ・外来鳥類の分布変化について把握すること
- ・新たに外来鳥類が定着した場所では、在来鳥類の生息状況に変化があるかどうかを検討すること

が解析項目としてあげられました。



図 2. 分布域を広げていると考えられるガビチョウ(左)とソウシチョウ(右)。撮影 内田博氏、守屋年史氏

#### 人による影響についての解析

人為的な影響については、森林面積の減少や分断化、草原の管理放棄による樹林化などが注目されています。そこで、

- ・モニタリングサイト1000里地調査の結果も合わせて人為的影響の異なるサイト間での鳥類相の比較を行ない、人為的影響が強く現れる種を明らかにすること
- ・樹林化の程度の異なる草原において、草原性鳥類の減少等鳥類群集の組成変化を把握すること
- ・草原の開発に伴う鳥類群集の組成変化を把握すること

が解析項目としてあげられました。

これらの観点を踏まえて、第1期、第2期すべてのデータをあわせて日本の鳥類相の変化について解析していきたいと考えています。こんなことをみたら面白いのでは、などアイディアがある方はご連絡ください。

## 海外調査情報

### 市民参加の鳥類モニタリングの事例紹介

#### 葉山政治(日本野鳥の会)

モニタリングサイト1000での森林草原の鳥類調査は、2004年度からスタートしています。日本全国を対象とした調査は、1978年に行われた自然環境基礎調査の日本産鳥類の繁殖分布がそのスタートです。一方、欧米を見ると1962年に英国で最初の取り組みが行われていて15年以上の歴史の開きがあります。どのような工夫でモニタリング調査が継続されているのか。長期の継続調査を目指したモニタリングサイト1000で何か参考とするものがあるのではないかと考えていましたが、昨年10月に名古屋で開かれた生物多様性条約締約国会議のために来日したバードライフ・インターナショナルのメンバーにヨーロッパでの取り組みについて話を伺いましたのでご紹介します。

まず、広範囲でのモニタリングを行うためには、多くのバードウォッチャーが存在していることが条件となるため、より多くの人々が野鳥に関心を持ち、また、調査にも関心を持ってもらうために、普及的な要素を持ったモニタリングを行っているということで「Spring Alive(春の訪れ)」「Big Garden Birdwatch(庭でバードウォッチ)」の2つのプログラムを紹介していただきました。

#### Spring Alive(春の訪れ)

Spring Aliveは、8歳から12歳の子どもと、その親を対象としたプログラムで、ヨーロッパの30か国から4万4千人が参加しています。調査対象をシュバシコウ、ツバメ、ヨーロッパアマツバメ、カッコウの4種に限定して、その年に初めて対象種を観察した日付と場所をインターネットや手紙で報告するものです。ウェブサイトでは対象種毎に各国の報告数のランキングを随時公開してゲーム性を持たせる一方で、ヨーロッパ全体や各国でどこまで渡りの前線が進んでいるのか、観察の報告数の分布を見られるという科学的な興味も満足させるように出来ています(図1)。

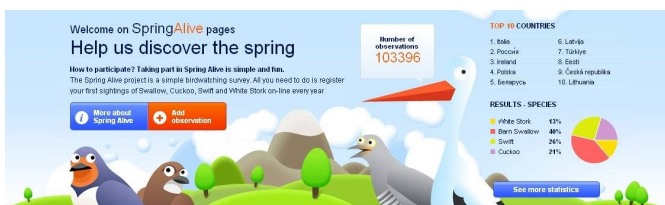


図1. 子どもが楽しんで参加できるデザインのホームページ。  
<http://www.springalive.net/>

#### Big Garden Birdwatch(庭でバードウォッチ)

Garden Birdwatchは、英国で行われているプログラムです。英国では野鳥が訪れる庭づくりが盛んで、よく木を植えたり餌台を設置したりされていますが、そこで約30年前から、RSPB(英国鳥類保護協会)が実施している事業で、全国で決まった土日に1時間、家の庭や近くの公園で観察し

た野鳥の種類と個体数を報告するものです。近年は、全国28万地点以上で調査が行われています。こちらも普及を狙いとしたプログラムですが、「あなたが鳥が好きで、鳥のために何かをしたいならば参加ください」と呼びかけ、鳥の数を調べることが保護につながることを意識付けしています。調査の結果は、種毎の経年的な増減や観られた庭の分布として公表されています。また10年前からは、学校の子供達を対象としたBig School Birdwatchというプログラムも行われています。

いずれも、調べるということを普及するプログラムという位置づけで行われているようです。

#### Breeding Bird Survey

一方、モニタリングサイト1000の陸生鳥類に該当するのが英国のBreeding Bird Surveyです。生物多様性保全や鳥類の保護のために、科学的なデータの収集を行なっています。国全体を1kmメッシュに分けて、そこからランダム抽出したメッシュで、センサス調査が行われています。2009年時点で3,200か所での調査が行われています。調査結果をもとに、保全対象種の優先順位付けを行い、保護のための研究や保全事業の実施に使われています。近年農地に生息する鳥類の減少傾向が顕著にみられることが明らかになり、農地利用への反映もなされています。そして現在では、ヨーロッパ各国が協調してPan-European Common Bird Monitoring が実施され、鳥類を広域の環境モニタリングの指標に使う目的で行なわれています。

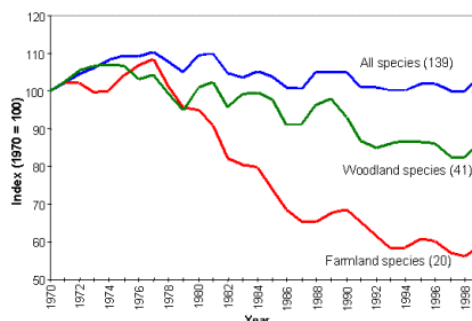


図2. 英国のモニタリング結果に見られる農地の鳥の減少  
<http://www.ebcc.info/>

#### モニタリングを続けるには

モニタリング調査のフィールドワークは、ボランティアで行われています。市民参加で調査が長く継続するためには、何が必要かという質問の答えとして以下のものでした。

- ・多くのバードウォッチャーの存在が欠かせず、そのために子供の頃から鳥に興味を持ったり調査に関心を持たせる。
- ・結果を分かりやすい形で公表する。
- ・データがしっかりと蓄積され、利用出来る形で提供されている。
- ・資金がしっかりしている。

モニタリングサイト1000は、長期にわたり継続的に調査する事業です。こうした海外の事例なども参考にして、モニタリングを進めていきたいと考えています。



## レポート

### 身近な場所でのモニタリング ～ベランダバードウォッチと子雀ウォッチ～ 植田陸之(バードリサーチ)

モニタリングサイト1000ではさまざまな生態系の調査を実施していますが、そこからもれてしまっているのが、住宅地など身近な自然のモニタリングです。人の生活圏だけに、人の生活様式等の変化が、即、これらの自然に影響するので、変化が大きく、モニタリングが必要な環境と思われます。家のまわりの鳥は、日常的にたくさんの人が見ているはずなのですが、それが情報として蓄積されてはいません。そこでバードリサーチではベランダバードウォッチという調査を実施しています。

通勤や散歩の際にみた鳥を毎月上中下旬に報告していただく「家の周りの調査」と繁殖期と越冬期に庭や家のまわ

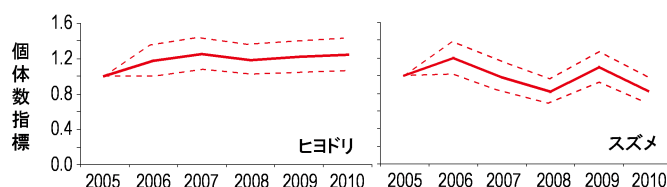


図1. 増加傾向にあるヒヨドリと減少傾向にあるスズメの個体数の変化。2005年を1とした個体数指標で示した

りに来る鳥を15分間、6回報告していただく「家での調査」の2つの方法で実施しています。まだはじめてから6年しか経っていない調査ですが、ツバメやスズメが減少傾向に、ヒヨドリやメジロが増加傾向にありそうなことが見えてきています(図1)。しかし、まだまだ調査地が少なく日本全国の状態を明らかにするには不十分な状況です。調査にご協力いただける方は、以下のページよりお申し込みください。

[http://www.bird-research.jp/1\\_katsudo/index\\_veranda.html](http://www.bird-research.jp/1_katsudo/index_veranda.html)

ベランダバードウォッチでは個体数の変化はわかりますが、その原因まではわかりません。そこで、スズメ減少の原因を明らかにしようと「子雀ウォッチ」という調査も実施しています。この調査は、子連れのスズメを見たときに、その場所と、日付、子雀の数を知らせてもらうものです。今年1年の結果で、年による影響もあるかもしれませんが、市街地と農耕地を比べると市街地のヒナ数が少なく、市街地の繁殖条件の悪さが伺えました(図2)。この調査も次の繁殖期も実施しますので興味のある方はこちらをご覧ください。

<http://www.bird-research.jp/kosuzume.html>

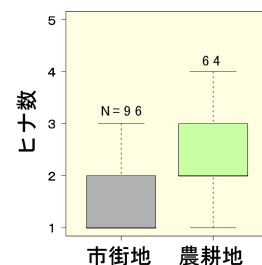


図2. 市街地と農耕地でのスズメの巣立ちヒナ数の違い

## 担当者紹介

### 日本野鳥の会

(財)日本野鳥の会の葉山政治と申します。北は北海道のウトナイ湖サンクチュアリから西は姫路市自然観察の森まで、サンクチュアリの現場で仕事をして、四季の移り変わりや野鳥の生活を目の当たりにしてきました。一昨年サンクチュアリ室から自然保護室に異動となり、モニタリングサイト1000にも関わるようになりました。全国の皆様のご協力で集まるデータをしっかり活用して、全国的・長期的な鳥たちの動向と自然の移り変わりを把握して行きたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



### バードリサーチ

今年からモニタリングサイト1000の調査に関わらせていただきます、バードリサーチの高木憲太郎です。大学院でハシボソガラスを研究して以降、カワウ、ミヤマガラスと、もっぱら黒い鳥専門でやってきましたが、今後は黒くない鳥にも愛を注いでいく決意です。まずは第一期のデータと、モニ1000里地の調査結果とを合わせて、森林の伐採や草原の樹林化が陸生鳥類に与える影響を分析していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

